

開催地名：長野県長野市	
開催日時	令和2年11月8日（日） 10：00～11：30
開催場所	長野市小田切交流センター
語り部	吉田 亮一 （宮城県仙台市）
参加者	自主防災組織、地域住民、消防団員他 74名
開催経緯	<p>小田切地区の人口853人（令和2年8月1日現在）のうち65歳以上の人口は448人（高齢化率が52.5%）である。地区内には、土砂災害警戒区域が128箇所、土砂災害特別警戒区域が80箇所あり、また、集落も点在していることから、大雨による土砂災害発生時の避難誘導に課題がある。どのように避難誘導すべきか、災害発生をどのように伝えるかなどの課題解決に向けて、語り部のお話を伺うこととした。</p>
内容	<p>（1）自然災害においては「想定外」はない</p> <p>私は仙台市で保育園を経営する傍ら、平成18年（2006年）より、地元仙台市太白区茂庭台5丁目町内会の防災統轄をつとめている。私が町内会の防災統轄をつとめるようになってから、まずは「想定」以上の備えを積み重ねてきた。その理由は、「最悪の事態を想定」しておけば、様々な事態に対して地域として対応ができるはずだからである。地震に限らず、他の大規模災害についても同様だと思っている。だからこそ、それに耐えうる「想定」以上の備えが必要になる。従って、地域の方々には「想定外」というのは通用しないということを常々伝えている。すべての責任者は、最大の危機感と想定以上の備えで、命を守る努力をお願いしたい。</p> <p>（2）避難所の実際</p> <p>避難所の内容は場所によって全て異なり、一時避難場所、地域指定避難場所、広域避難場所、福祉避難場所等の種別がある。基本的には他地域の方が「地域指定避難場所」には行ってはいけないことになっていて、あくまでも地域の方々が優先ということになる。「避難所」には優先順位があるということを認識していただきたいと思う。そして、避難所へ運ばれてくる「救援物資」についても、まずは避難場所に避難してきている方々のためということである。</p> <p>避難所で工夫した点としては、まずは様々なトラブルが起こらないように避難所内のスペースを地域毎に区分けした。具体的には、出入口を1か所にして利用人数を把握しやすくし、更には高齢の避難者がくつろげるスペースを部屋の両サイドの壁際に設けた、「半島型避難スペース」にした。避難所を利用する方々にとっても、運営する側にとっても、非常に便利であるので是非お勧めしたい。</p>

	<p>(3) 平成 18 年から行った 5 年間計画の活動</p> <p>私たちの地域は平成 18 年から、5 年間の計画で災害に備えてあらゆる準備をしてきた。まずは「防災マップ」の作成、次にマニュアルの作成を行った。さらには「自主防災組織」も作り、そして、防災の勉強会の実施を経た上で、防災訓練を実施した。定期開催の防災訓練では、普段自宅や地域にいる大人や高齢者、小学生の子供を中心に行った。なぜなら、働いている大人の方々は、平日に地域に居ないケースが多いうえ、職場や現場等の復旧に駆り出されてしまい、あてにできないからである。</p> <p>また、地域内の介助者として、元医者、看護師、保健福祉士、学校の先生等だった方々を募り、災害発生時の協力を約束して貰うこととした。すべてを行政に頼らず、地域でできることは地域で行うことが重要である。</p> <p>(4) 最後に</p> <p>震災時の避難場所の運営方法については、地域住民による運営を徹底した。逆に学校の職員には、地域学校に在籍する児童生徒の安否確認や、被害を受けた学校の立て直しに注力していただいた。従って、避難所の運営は地域町内会や自治会の役割であり、その避難所におけるルール設定については地域住民全員が認識しておかなければならず、地域と学校が一体になることが最も重要であると思う。</p> <p>このように、先であげた「想定以上の備え」を含め、あらゆる準備を行ってきたことで大震災を乗り切ることができたと思う。地震だけでなく、様々な災害にも対応できることだと思うので、是非実践していただきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
開催地より	<p>震災前から住民主体の地域防災活動がしっかり行われていたこと、そして具体的な活動内容についてわかりやすくお話いただき、とても興味深く拝聴できた。今後の防災活動に役立てていけるよう、活動していきたいと思う。</p>